

A large group of Northeast University students posing on a track. In the background, a purple flag with the university's crest and the text '東北大学陸上競技部' (Northeast University Track and Field Club) is held up. The students are arranged in many rows, with some in the front row lying on the ground. Many are wearing white t-shirts with '東北大学' (Northeast University) printed on them. The background shows a green field and a red running track.

東北大学 七大戦選手紹介2023

三秀会向け追記Ver.

文責：東北大学M1,M2部員一同

幹部紹介



◆ 女子主将
伊藤 未空 (4)

◆ 出場種目
走幅跳, 100m, 4×100mR



◆ 主将
齊藤 宥哉 (4)

◆ 出場種目
400m, 4×400mR

男子短距離



◆ 西尾 陸大 (3)

200m 22.05 rank. 5 (PB 21.91)

100m~400mをこなすマルチスプリンターでもある。

今季上り調子のため、自信をもって表彰台を狙う。今大会終了とともに主将就任。

男子4×100mR

チームワーク◎

表彰台を狙う



男子短距離

ロングスプリントは東北大のお家芸！



◆ 齊藤 宥哉 (4)

400m 48.06 rank. 1

主将としてチームを引っ張る傍ら、400mは優勝筆頭候補。東北大の総合優勝をたぐり寄せるスパートに注目

2021年代替大会 400m 優勝



◆ 菅野 涼太 (2)

400m 49.71 rank. 13 (PB49.13)

今季成長(復調)中。

PBではrank. 4 と大きなポテンシャルをもち、表彰台を狙う。昨年大会はルーキーながら5位に入る勝負強さも。

男子短距離

マイルは優勝必至！



400m 48.06をもつ齊藤(4), 48.63をもつ池谷(3), 今季マイル1走の400m地点ラップで48秒台をマークしている西尾(3)を中心とし、厚い層を持つ。

満を持して優勝をもぎ取る



男子短距離（総括）

◆ 100m

今季は川手が北大戦で11.02の大幅PB更新を果たした。元木と笹山は怪我や不調に悩まされることが多かったものの、ここぞといった場面で結果を残した。他大の選手は競技力が非常に高く、厳しい戦いが予想されるものの、当日は10秒台で魅せてくれることを期待。

◆ 200m

帰ってきた西尾と1年生の神近、室田が出場。北大戦で3rdベストを出し、好調の西尾に期待がかかるのは勿論のこと、1年生の2人もわずか数か月程で頭角を現してきた。3人全員で得点を獲ってきてほしい。

◆ 400m

主将の斉藤はケガ明けだが実力を考慮すると優勝見込み。大阪大の1年がライバルか。他大は49秒台前半が多く、菅野は競り勝って決勝に行けるかが勝負。PCの川野輪は七大戦マジックで実力を伸ばした経験を持つ（昨年8位）。今年も大幅PBで入賞なるか。

◆ 4継

笹山、西尾、元木、川手が出場予定。直近で行われた宮城県選手権では仙台大と肉薄する順位を取るなど、メンバー間での連携が取れつつある。チームワークと勝負強さを糧として、高得点を目指してほしい。

◆ マイル

層の厚さ、実力ともに優勝筆頭候補。期待してください。

女子短距離



女子4×100mR

総合力で優勝をもぎ取る

気合十分



女子短距離・中距離



◆ 菅田 理乃(3)

400m 56.41 rank. 1 (PB 55.89)

800m 2.12.36 rank. 1

2020年インターハイ代替試合B決勝5位・
日本インカレ準決勝進出・国体優勝(リ
レー)経験をもつエース。

2冠で総合優勝を決定づける。



◆ 加賀谷 美結(ミュ) (2)

400m 1.01.24 rank. 7

800m 2.19.81 rank. 5

800mはrank. 3と0.19秒差。

過酷な日程にも負けない体力と400m・
800mともに今シーズンPB更新した勢い
で表彰台を狙う。

女子短距離（総括）

◆ 100m

上位は12秒台前半～中盤が多くいる。菊地(2)は体調の事情で直近まで走れていなかったものの、自己ベストは12.63。どこまで迫れるかに注目。伊藤(4)は出れる種目に出るといった面で、主将の背中を見せてくれるだろう。

◆ 400m

p.7に記載の通り。

◆ 4継

今年は100m専門のメンバーが少ない中だが、メンバーが昨年から大きく変わっていないため、上位入賞を狙いたいところ。阪大・京大・名大は相当強い。北大や九大に勝ちたい。

男子ハードル

◆ 西里 碧澄 (2) 110mH 15.15 rank. 8

今季PBを15.70→15.15まで更新.

勢いそのままに14秒台に突入し, 表彰台を狙う



◆ 阿部 竜胆 (2)

400mH 54.10 rank. 7

前回大会はルーキーながら3位入賞.
ここ1週間で急激に調子が上がって
おり, 上位入賞が見込まれる.



◆ 池谷 駿 (3)

400mH 53.60 rank. 3

今春に400mで48.63をマークし, スプリント力
が伸びている. 400mHでもPBを更新し, 表彰
台を目指す. 前回大会4位.



男子ハードル（総括）

◆ 110mH

他大に14秒台が5人おり、西里はPB更新が表彰台への必須要件となる。その他、10種の根本もエントリー。こちらは多種目をこなす中決勝進出を狙う。

◆ 400mH

京大の高橋(2)が51.11と頭一つ抜けている。その他は53秒台~55秒台が固まっていることから、接戦が予想される。東北大は十分に上位入賞を狙える。昨年2~4位を独占した流れを今年もつくれるか。

◆ ハードルパートの状況

京大と阪大が実力的に一步リードしている状況。

その中でも実力を発揮し、110mHで二人、400mHで二人が得点できれば食らいつけると期待。

今シーズン、ノリに乗っている選手が多いので勢いのあるレースに注目！

男子中距離

◆ 大塚光陽(こうや)(3)

800m 1.51.36 rank. 2, 1500m

昨年の七大戦では800mで見事優勝し、**現大会記録**を打ち立てた。7月の大会ではPBも更新しており、ノリに乗った状態で七大戦連覇に挑む。

2022年大会 800m 優勝



◆ 日引英舜(あきとし)(1)

1500m 4.00.76 rank. 12

本年度の東北インカレでは1年生ながら3位入賞を果たした。勝負強い走りに定評があり、資格記録以上に上位入賞が期待される。



男子・女子中距離（総括）

- ◆ 中距離パートの昨年の七大戦は男子800m1位、3位、女子800m3位入賞という結果だった。
- ◆ この1年間はPCの大塚光陽を中心として競技力の向上を図り、さらなる得点獲得を目指して練習に励んできた。
- ◆ 今シーズンはすでに多くの部員がPBを更新し、正選手の選考ラインも過去最高となった。（特に男子800mは出場選手のPBが1.51~1.53でそろっている）
- ◆ 他大にも全カレ出場者（男子800m, 高橋(4), 1.48など）がいて激しい争いが予想されるが、今年の中距離は戦力として遜色ない仕上がりとなっている。
- ◆ 800m, 1500mともに1年生が実力で枠をもぎとった。未来も明るい。

男子長距離



◆ 坂本 順 (4)

5000m 15.14.24 rank. 9

シーズンインから安定してPBに迫る15'10秒台を記録した。その後は怪我に苦しんだが、持ち前のスピードを生かして入賞が期待される。



◆ 杉山 大輔 (2)

3000mSC 10.05.81 rank. 10

東北インカレでは競歩に出場し、800mでは1'59を記録した多彩な選手。まだ3000mSCの経験が少ないため、大幅な記録更新の可能性もある。

女子長距離

タイムの近い2人で切磋琢磨し、
得点を狙う。

◆ 江口 真央 (2)

3000m 10.52.95 rank. 7 (PB 10.38.96)

◆ 木村 瑞葉 (3)

3000m 11.00.13 rank. 8 (PB 10.43.13)

(入賞ラインは10.12)



男子競歩，トラック総括

◆ 田中 伊織 (2)

5000mW 23.50.01 rank. 9

今シーズンはPBを更新し、東北インカレでは入賞を果たした。七大は初出場であるが、この勢いでさらなる記録の更新と入賞をしてくれるだろう。

(入賞ラインは22.42.10)



**400m， 400mH， 800mを中心に
得点をもぎとり、
トラック総合優勝！**

男子・女子短距離，男子競歩（総括）

◆ 男子5000m

名大と東大に実力のある選手が多く、厳しい戦いが予想される。直前には千葉の怪我があり、補欠である1年の照内が出場することとなった。

経験豊富な坂本を中心として、積極的なレースに期待。

◆ 男子3000mSC

今シーズンは3人そろって、10分一桁の記録を安定して出している。実力的には大幅なタイム更新も狙えるだろう。

資格記録では厳しい戦いが予想されるが、ベストを更新して入賞争いをしてほしい。

◆ 女子3000m

p.15に記載の通り。

◆ 男子5000mW

1年の山中は完全に実力が戻ってはいないものの、入賞争いをできる持ちタイムを持っている。また、田中は今シーズンベストを更新して勢いがある。

フレッシュな二人の歩きに期待。

4年コンビが跳躍種目を席卷！



◆ 大谷 航平 (4)

三段跳 14m29 rank. 6

前回大会3位の実力者。
三段跳の技術の高さはピカイチ。2大会連続の表彰台を狙う



◆ 島崎 雄飛 (4)

走高跳 2m00 rank. 2

今シーズン5年ぶりにPBを更新して、ついに2mジャンパーとなった。前回大会は熱中症で悔しい結果に終わったため、今年のリベンジに期待がかかる。

男子跳躍

◆ 島村惟葵(ゆいき) (2)

棒高跳 4m60 rank. 1

今年は初戦からPBを更新して勢いに乗っている。

エントリーランキングは2位を大きく離して1位。実力通り優勝。



女子跳躍



◆ 原田 萌々子(3)

走高跳 1m60 rank. 3

前回大会でPB1m60を跳んだほか、日本インカレにも出場し、実力をつけた。昨年末の怪我の影響がありシーズン序盤は苦しんだが、最近徐々に調子を上げている。表彰台への期待大。



◆ 伊藤未空(まひろ) (4)

走幅跳 5m22 rank. 2

100m 13.52

前回大会3位
今年はPB付近の記録を連発しており、本人は部記録(5m48)の更新も狙っている。女子主将として挑む七大戦での活躍に注目。

男子・女子跳躍（総括）

◆ 男子走幅跳

入賞ライン予想は6m80前後。3人ともPB越えの記録が必要となるが、大きく離されていないため可能性は十分ある

◆ 男子走高跳

一位は圧倒的だが、2位以下は混戦が予想される。4年の嶋崎は2位を狙う。3年の平山も昨年3位の實力者なので2年連続の表彰台に期待がかかる。

◆ 男子棒高跳

2年の島村は優勝候補。得点ラインは4m弱となる見込みで、他の2人にも可能性がある。

◆ 男子三段跳

得点には14m20程必要になる予想。4年の大谷は2年連続の表彰台を狙える。3年の2人も得点に絡める可能性は高い。

◆ 女子走幅跳

4年の伊藤は優勝を狙える位置にいる。昨年3位からのジャンプアップに期待。

◆ 女子走高跳

3年原田と他大合わせて1m60が3人→2位タイ。1本1本の試技が重要になる。

男子投擲

十種専門の4年コンビが**得点荒稼ぎ**

◆ 小出寿啓(としひろ) (4)

砲丸投 10m93 rank. 2

円盤投 31m08 rank. 7

両種目とも今季PBを更新, 勢い◎

やり投 44m82 rank. 9

◆ 根本 大輝(だいき) (4)

円盤投 33m22 rank. 4

砲丸投 10m30 rank. 5 (PB 10m86)

棒高跳 3m70 rank. 8

110mH 15.32 rank. 12, 走幅跳

2022年,2023年(予定) 日本インカレ出場(十種)



男子投擲

長全国高校総体 陸上競技男子やり投 第2位 (64m07)



◆ 増田 併介(へいすけ) (1)

やり投 57m28 rank. 3

(PB 64m07=rank. 1)

昨年度インターハイ・国体ともに2位入賞の実績とともに優勝を狙うルーキー。常に成長を続けようとする姿勢は、本番にも表れることだろう。



◆ 川内 蒼馬(そうま) (2)

ハンマー投 26m64 rank. 4

やり投 52m14 rank. 7

砲丸投 9m70 rank. 9

投擲パートのボス。1年で投擲パートを得点源に魔改造した。自身も表彰台を狙う。

女子投擲

◆ 平谷 めるも (2)

砲丸投 11m09 rank. 1

やり投 33m31 rank. 2 (1位は50mオーバー→2位を目指す)

フィールド優勝のカギを握る。2種目ともに大会記録(砲丸投11m35, やり投35m14)更新の可能性大。

昨年コロナで欠場の悔しさを胸に、圧倒的練習量で制する。

2021年U18出場, 16位



男子・女子跳躍（総括）

◆ 男子砲丸投

ランキング1位は12m台。続いて10m台に5人が固まっている。根本・小出・川内3人入賞が期待される。

◆ 男子円盤投

ランキング1位は38m90，続いて35m1人，33m2人(根本)，32m2人，31m1人(小出)，数人続いて28m90(小椋)となっている。接戦の様相

◆ 男子ハンマー投

1位は圧倒的(36m59)だが，それ以降は20m台の選手が続き，記録なしも18人中6人いる。その中で実力者を3人そろえた東北大は，大量得点のチャンス。

◆ 男子やり投

期待のルーキー増田のSBを超える60mスローワーが2名いる。ハイレベル。

増田はパフォーマンスを戻せるかがカギとなる。この他は，50m台付近の選手が固まっている。川内，小出ともに経験も実力も十分。当日のパフォーマンス次第で大量得点も可能。

◆ 女子砲丸投・やり投

p.24参照。めるも強し。

トラック優勝・フィールド優勝
ともに現実的

突出した選手◎，総合力◎

総合優勝！

トラック・フィールドとともに
複数種目優勝見込み

総合力◎

総合優勝！